

新旧のお盆が残り残暑見舞いを出す頃だが高校野球に負けず沖縄の夏は真っ盛りです。どこか異国的な雰囲気のカヌチャリゾートの夕暮を表紙に会報の9月号ができあがり会員の皆様にお届けします。

最初に6月29日に開催されました第182回県医師会臨時代議員会の報告がなされました。今回、新しく議長に新垣善一先生がまた副議長に高里良孝先生が選出されました。宮城信雄医師会長の挨拶のあと審議に入り、審議された報告2件、議事7件はすべて承認されました。3名の代議員からの質疑と役員からの回答の要旨も続いて掲載されておりますので、御一読下さい。

大山朝賢常任理事からは全国の個人情報保護担当理事連絡協議会の概要が7頁に渡り報告されています。医療における個人情報については現場でとまどうことも多く、今回は日医より2つの指針が会員に送られるということで期待したいと思います。報告の中で気になるのは個人情報保護法上違反とはならない公的機関への回答が民事上は損害賠償請求の対象になる恐れがあるということです。個々の事例に慎重な対応が必要になることが指摘されています。

月間・週間行事は3件掲載されています。石川清司先生から、がん征圧月間のメッセージがありました。肺がんは検診発見例では8割が完全切除可能であり肺がん制圧へ早期発見の重要性を強調されています。久木田一朗先生から、救急の日・救急医療週間のメッセージがありました。2回目となる救急・災害フォーラムは更に規模が大きくなり官民一体となって救急医療を発展させる力となりつつあるようで期待されます。久場睦夫先生から、結核予防週間に寄せてのメッセージがありました。結核は減ってはいるがなくなっていないので診療の際には結核のことを念頭に入れる必要があると指摘されています。病気の制圧・予防月間などを設けることにより医療関係者や一般市民の病気への認

識が高まっていくのではないのでしょうか。

若手コーナーでは永山盛隆先生から「研修医へのメッセージ」が寄せられました。先生の記事の中に出てくる「難儀で忙しいことはむしろ楽しい事であり辛い事ではない」というのは、是非若い先生方には味わって戴きたいお言葉です。

新臨床研修制度コーナーには多くの研修医を受け入れている中部病院の宮城良充先生に御寄稿戴きました。新しい制度のもとで研修医を受け入れ、教える側にも教えられる側にもとまどいや御苦労があったことがよくわかりました。新旧の制度のもとで育った研修医の気質や習熟度の比較はとても興味深く読ませて戴きました。中部病院の研修システムは全国トップレベルですが新制度のもとでも優秀な質の良い医師を送り出せるシステムになっていくであろうと期待されます。

また、3名の研修医からもそれぞれの研修についての感想を寄せていただきましたので、是非、御一読下さい。

第12回の県民公開講座については玉井修理事から報告されています。脳卒中をテーマとし800人の聴衆が集まり内容的にもかなり盛り上がり成功裏に終わったとの報告でした。

生涯教育コーナーに澤口昭一先生から、プライマリ・ケアコーナーに嘉手川啓先生から貴重な論文を投稿して戴きました。また、若手コーナーに永山盛隆先生から、リレー随筆に呉屋良信、随筆コーナーに長嶺信夫先生から投稿を戴きました。5名の先生方の御寄稿に深く感謝申し上げます。

9月号に原稿をお寄せ戴きました先生方に深謝申し上げるとともに、会員の諸先生方には今後も会報の色々なコーナーへの投稿を賜りますよう御協力お願い申し上げます。

広報委員 比嘉 敏夫